



平成13年 支部 総会

男声合唱団誕生

恒例の平成13年の陵水会名古屋支部総会が、8名の来賓の出席を頂いて、6月8日(金)名鉄グランドホテルで、盛大に開催された。

今回は、例年総会を4月に開催してきたが、ホテルの先約があったため、6月に延ばしたものの。

今年の担当幹事は、大学14回卒。この日のために昨年5月から準備委員会(15名)を9回開催し、当日に備え万全の態勢で臨んだ。最も苦労したのは、出欠の締切日に、116名の出席者しかなかったものをあらゆるルートを使って、出席の働きかけをしたこと。

その結果、総会には186名もの会員の出席の連絡を頂いていたが、当日は172名の出席で、そのうち新会員は1名だけ。

(総会・講演)

午後6時に開会し、吉田支部長の挨拶に続いて、8名のご来賓の紹介。来賓を代表して、福田敏浩経済学部教授からご挨拶を頂いた。(写真)その中では、最近のトピックスとして、7月に学長が宮本教授に交代されることと、経済学部の現状を紹介。本年4月に産業共同研究センターが



発行所
 陵水会名古屋支部
 名古屋市中区栄
 4丁目21番11号
 (株)サンワ内
 TEL 052-241-0151
 FAX 052-261-5715
 発行責任者 吉田宜正
 印刷所 中塾総合印刷
 ☎0569 (21) 2426代

正式にスタートしたこと、大学院にグローバルファイナンス専攻学科が設置されたこと、昼間の学部定員が550名にもなり、留年する者が3割にも達し、就職先も年々悪くなっていることなどが報告された。

続いて議事に入り、水野会計幹事から平成12年度の会計報告があり、原案どおり承認された。

その後、倉坪幹事長から学年幹事の紹介、交遊サロン「陵水亭」の場所、日時の変更(ニセツイ テムズクラブ、名古屋市栄交差点西北角の日生栄ビル9階、第3金曜日18時30分、TEL 052-9661-8645)の報告があった。

引き続き、講演会に移り、人間の条件、ザガードマン、東海テレビ「てれび博物館」の司会等でお馴染みの俳優川津祐介氏を講師にお招きし、「人生死にかけてからが面白い」というユニークな演題で話して頂いた。川津氏は自己の体験から、21世紀にトップに躍進する心臓病との苦闘、魂と肉体との係わり等について、身振り、手振りを交えた迫真の演技で講演された。(講演要旨は別掲)

(懇親会)

会場の模様替えの後、東海テレビの朝山くみアナウンサーの明るく、

さわやかな司会でスタート。

陵水会本部の岡田一理事長のご祝辞を頂いた後、本年9月に結成される陵水・名古屋「男声合唱団」(仮称)について、浅井準備委員会代表から案内と勧誘があった。

続いて、井澤慶一顧問の乾杯音頭で開宴。懇親会では、先輩後輩の交歓、同窓生同志の談話で非常に話が盛り上がり、彦根での青春時代の話にも花が咲く。若い人たちの参加が今年も非常に少なく、チョッピリ寂しかったので、今後は同期会を同時に開催するなど多くの人の参加を期待したい。

この間に、本年春卒業の新入会員の紹介、男性合唱同好会のリードによる校歌・寮歌の大熱唱、来年の幹事の紹介・決意表明があり、会場はいやが上にも大いに盛り上がった。時間はあつという間に過ぎて、9時を廻ったところで、当日最年長者の水野稔氏による万歳三唱、閉会の言葉で総会の幕を閉じ、来年の再会を約して散会した。

(大学14回卒 石原秀夫)



総会・記念講演

川津さんは、若いころの自殺未遂、映画俳優時代の大けが、そして度重なる心筋梗塞（こうそく）の発作で味わった数々の臨死体験を通じて得られた魂と体の関係について触れ、死と直面することにより、「この世でそれぞれ出会うことを約束された魂が出会い、元気で楽しい人間として喜びにあふれた生き方を知った。死ぬ瞬間まで元気に生き生きと生きなければならぬ」と人生の極意をつかんだ経緯を披露した。



にわたる発作に見舞われたばかりだった。当日は、そうした緊迫したなかでの講演だった。深刻なテーマにもかかわらず、笑いを引き出しながら、「死そのものに対する恐怖はないものの、心筋梗塞の発作は肉体的に非常に苦しい。しかし、せつかく、神様がくれた苦しみだから心ゆくまで楽しんでみたい」と、文字通り、死にかけてからのエピソードを語り、会場から深い感動を呼び起こした。

講演の主な要旨は次の通り。
21世紀は、がんを抜いて心臓病が死因のトップになる。半分以上が心臓病で死ぬことになるだろう。私は、1996年1月18日に群馬県の雪の山奥で心筋梗塞の発作を起こし、心臓が止まってしまった。それにもかかわらず、不思議な体験で山から戻ることができたが、その間の数十時間というものが全く、体の感覚がなかった。

東京に戻り、主治医の点滴により生命力がよみがえった時に心臓に激痛が走り、魂と肉体がドッキングしたことを確認した。魂が痛みを感じた訳で、麻酔を止めてその痛みを味わった。しかし、心臓の機能の4分の1が止まった状態で、体にも頭にも血が回らず、その時点では、3週間以上の生存は無理と診断された。幸いなことに生きながらえて、4月に7時間に及ぶ手術を受け、3本の冠状静脈を取り換えた。

手術は一応、奇跡的に成功したが、その後は結滞を余儀なくされ、意識が遠のくことが、よくあった。現在では脈拍が1分間60までに回復し、安静が必要な状態ではあるけれど、こうして立って、話ができるまでに回復した。

心筋梗塞の発作で体験した肉体から魂が離れる状況は、それまでも経験している。太平洋戦争の敗戦が原因で、16歳の時に戦時中から敗戦の激変により、この社会は生きるに値しないと判断、その判断が変わらなかつたなら、19歳の最後の日に自殺しようとして決意したのだ。その決意通りに致死量の2倍の睡眠薬を一粒ずつ飲んで、覚悟の自殺をした時に最初の経験をした。その時に気がついていたら真つ暗の恐怖の固まりの中に落ち込んでいたので神様、元に戻してと叫んだら魂が体に戻ってきた。あの世界には2度と戻りたくないと思った。

次は、映画俳優になってからアクションシーンの撮影で、スタントマンに頼らず、自らが演じたら、頭がい骨骨折の大けがをした。魂としては自らの肉体が運ばれていくのを見ながら、いい人生だったと思っただけけれど、幼かった子供たちのことなどを考えると、戻ってやりたいと思ひ、この時も神様、あの体にもう1回戻してくださいと、頼んだ次第だ。その結果、戻れた。

何とか助かったものの、この事故で、治療費は会社から出ないし、保険は適用されないし、回復後も仕事が出来ない状態に追い込まれた。ただ「スプーン曲げ」ができたので、「あなたも超能力者になれる」のタイトルで講演し、3年間というものを食べさせてもらった。しかし、無機物の世界の崩壊のみで、秩序に戻らないスプーン曲げをどれだけしても、何の役にも立たないと考え、人間の病氣治しに転じた。

これが余りにも評判となり、家庭のみならず、周囲にも深刻な問題ができた。このため、「お金など一銭もいらぬ」と思ったところ、ベストセラーとなっていた版元の出版社が倒産、併せて税理士が私の稼ぎを着服するという事件に見舞われた。仕事は無くなるし、残ったのは、修正申告の追徴金だけという事態に立たされた。

こうした中で、人はなぜ生きるのか、それは魂の救いに尽きるのではないだろうかと徹底的に考えるようになった。そうした折に人生の師といえる方に出会うことができた。その方に巡り合うことで、稼ぎを着服した税理士も含めて人生で出会った人々が出会うべくして出会うという必然的なものであったことが、分かるとともに、これまでバラバラだった出来事の経緯がすべてつながり、なぜ生きているのかが分かった。その矢先に心筋梗塞の発作を起こし、魂が体から抜けることを目の当たりにし、やっと魂だけが永遠の存在であることが突き止められた。魂だけになってあの世に帰っていくのは非常にうれしい感覚であることがわかったのである。

そして魂が持つて帰れるのは心に刻まれた思い出だけで、この世で欲しかったり、失いたくないと思っただけであったり、金や名前や家族や地位、役割は魂にとつて無意味であることが分かった。魂がしたいのは、感謝して愛することだけで、たとえ未熟であってもそれに全力を尽くして生きれば、明るく生きられるとの思いにたどり着いたのである。

(大学14回卒 太田幸一)

「知恵と工夫で差別化を」

支部長 吉田 宜正



皆さんいかがお過ごしですか。今夏は記録的に暑く、わが家の老猫も家の中で一番涼しい板の間で、大字で寝そべっています。白い街名古屋が暑いと思っていれば、大阪は沖繩に次いで暑いと関西人は言っています。

6月8日の名古屋陵水会には、多数の方々にご出席いただきましたことありがとうございます。また、大卒をはじめ、東京・大阪・京都・近隣の陵水会の支部長さん及び理事長さんのご臨席を賜り、盛大に催すことができました。厚くお礼申しあげます。

今回は、名古屋陵水会メンバーの約1割の200人の出席を目標に、第14回と24回生の方々が事務局となり、お世話をいただきました。この会が成功したお陰で、その後の陵水亭(栄の日生テラスクラブ)も、今

までと違い盛況です。今後も原則第3金曜日(8/24・9/21・10/19……)に開催されますのでご参加下さい。また、10月6日には名古屋CCにて、ゴルフコンペも開催されます。

さて、私はこの暑い中をコンペチタの調査に出歩いています。「ものづくり」から「サービス業」に転身したからです。小売業、サービス業は不況の真つ只中にあります。大阪江坂近隣のゴルフ・テニス練習場、レストランはいずれも利用者減、売上減で青息吐息です。考えられるあらゆる方法で、客の勧誘に血眼になり、他に一步先んじようとしています。

いまや大競争時代といえます。しかし、いつの時代でも、どの業界にも勝者はいます。社名はともかく、元気な会社(店舗)は商品、価格、宣伝、サービス、コストと、あらゆる点で知恵と工夫に満ちています。たとえば、最近の経験ですが、半径5km、10kmの人口、年齢構成、所得水準、消費行動などを把握して、それらの条件に合った高級品・廉価品を選別する。自店に合った所得層のいる地域へ宣伝する。などが必要

です。競争のキーワードは「情報の収集」「知恵と工夫」そして「差別化」とい感じがあります。

小泉総理が改革を叫んで信任されました。今後、いろいろな改革案が工程表に乗ってくると思いますが、大学の民営化もすめられるのではないのでしょうか。大学の改革・運営に競争原理がとり入れられるということでは、陵水会も知恵を出し協力しなければならぬでしょう。名古屋の私学の中には、民間会社のトップ経営者を招聘して、経営に当たっているところもあります。若者が都会指向ですから、地方の学校は特徴のある教育、運営をしないと成り立たないこととなります。これも、「知恵と工夫」「差別化」がキーワードではないでしょうか。(生意気な発言をご容赦)

まだまだ暑さが続きます。会員の皆さまには、ご自愛ください。ではお元気に。さようなら。

楽しくやろう！OB会

幹事長 倉坪 和久(大13)

上手にもちあげられて、昨年から「幹事長」をやらせていただいたお礼です。

もとより自分には役が大きすぎて力不足は明らかですが、幸い、有力

な副幹事長三氏に支えられ、先輩・同輩各位に助けられ、後輩各位に協力をいただきながら、なんとか1年目を動きだすことができました。歴代の名幹事長同様、よろしくお引立てのほどお願い申し上げます。

大役を指名されたときに思ったことは一つ。
永らく会計幹事をやらせてもらってきて感じている「名古屋支部」の良さ、和気あいあいさ・温かさ、とまりの良さ、先輩各位がつくってきてくれたこの大好きな伝統の風あいを、どうやって次へつないでゆくか？

実行部隊長として、ない知恵をしばらくながら、皆と行動していいこということでした。
ひと言でいえば、これまでどちらかといえば先輩各位にオンブにタツコだった支部活動を、もっと若いOB各位にも参加してもらおう、近日の主力になってもらおうという思いです。

ふと会員構成をみると、今の陵水会は大ざっぱに①祖父年代②おやじ年代③息子(嫁)年代の三代にわたっていることに気づかされます。そのうち、陵水会活動に熱心なのは、昔から①年代と②年代の一部です。

本稿はこれらのうちから、経営・商学部に関わる何点かを、私立大学の教育現場で働く立場から論じたい。その上で、母校の将来像についても触れてみたい。

2、わが国大学教育の問題点
わが国の18歳人口は、平成4年度の約205万人をピークに減少を続けている。平成8年度には約175万人であったが、平成12年度には約151万人に減少している。さらに、平成21年度には約120万人になるものと予測されている。そのため、私立大学では定員割れが常態化し、平成12年度に4年制大学で28%、短期大学で58%が定員割れをおこし、定員割れは54校67学部・学科にのぼっている。

このように真近に迫った全入時代の到来に備えて、生き残りを賭けて多くの大学が改革に取り組んでいる。しかしながら、学部・学科の新増設や改編、名称変更、入試改革、カリキュラム再編など外見上の改革が中心で、教育の内容やその方法など自身の改革に取り組んできた大学は少ない。ただ単にこれこれの改革をしましたとか、施設を整備しましたというだけではなく、改革の内容とその成果を具体的に示し、それを広く社会に認知してもらわなければならない。

あって、あとの後継者は無関心に近い。これが経験からの実感であって、これではいかん！という思いが背景のひとつになっております。

よくある話ですし、こういうモノは本来そうしたものであることも知らないわけではありませんが、せっかく目の前に良いコトがあつて、自分もその良いコトの仲間のひとりなのに、それを知らないのはいかにも残念。

すこしでもPRをし、すこしでも身近に感じてもらう、推定2000人を超す「名古屋支部」会員各位にすこしでも仲間意識をもってもらえれば幸い、そう思っています。

〈例1〉
年1回の「総会」出席者も①年代と②年代の一部がほとんどなので、もっと若い層にも出席してもらおうべく、その層の「年度幹事」をあらためてお願いし整備して、組織づくりをしながら出席をはかる。

その上で、さしあたり今年は大14回卒業各氏が担当だったので、その10回後輩の24回卒業幹事、さらにその10回後輩の34回卒業幹事各氏にも初めて補佐協力をしていただきました。そのおかげもあつて、従来よりすこし若いOBが増えはじめましたの

問題の所在は、学生の基礎学力と意識が変わり、親の大学に対する要請も変わり、さらに社会の大学に対する要請も変わってしまった点にある。大学は、この変化を真摯に受け止め対応していかなければならない。これからの大学は、どのような程度の学生が入学してきても、彼らを一人前の青年に育て上げるのが使命であると自覚する必要がある。このような考え方にシフトできない教員・大学は、社会から淘汰されざるを得ない。

そこで、大学は今後どんな対策をとるべきかを述べたい。第1に、やる気を起こさせることである。大学に入学する目的が明確でなく、意欲のない学生に対して、目標を持たせることである。資格取得や演習課題など、先ず目標を持たせ、その目標を達成させるための計画を立てさせ、やり遂げる体験をさせることが刺激となる。教員の熱意ある指導が、学生の個性を伸ばす原動力となる。第2に、居眠り・私語のない授業の実現である。80人程度の受講生を限度とし、なるべく対話方式にし、質問を投げかけ、考えさせることが大切である。理解を助ける教材を準備す

るとともに、視聴覚に訴えるよう工夫すべきである。第3に、社会でのボランティア活動や大学と企業が協力して学生に自らの専攻や職業に関連した就業体験を与えるインターンシップ等、学外の体験を取り入れた授業科目の開設などにより社会の実践的な教育力を大学教育に活用することも重要である。第4に、学生にどのような付加価値をつけ、どのような水準の知識・技術・能力を修得させるか明確にすべきである。公的資格などの取得に当たっては、外部講師に頼るのではなく、可能な限り大学の教員が率先して行い、熱意を示さなければならぬ。第5に教職員による就職相談・指導が大切である。学生が大学に強く期待するのは就職であるから、ゼミの場などを通じて、個別支援を行うべきである。

で、これからも続けていきたいと思えます。
なお一方で、若年化するほど大学の部科が増え、人数も数倍になって、「年度幹事」諸氏はわれわれ先輩とはまったくちがった苦労があることもわかってきました。

実際に顔を合わせる場もふやそうということ、従来からあった「陵水亭」を模様がえして活用してゆくことにしました。【別掲】
もともと、現理事長をやっていただいている岡田一氏が当支部長のとき
「楽しく語りあおう、飲みあおう」との趣旨ではじめられた会合で、毎月開催されてはいましたが、PR不足もあつて参加少人数でした。
しかし、顔ぶれといい雰囲気といOB会合らしいすばらしさがあるので、趣旨と名前はそのままに、顔ぶれだけは大きく門戸を広げ、参加をしやすいように、若いOB各位にもどんどん立ち寄ってもらおうという企画です。
一等地で、安い料金で、月に一晚楽しくOB会合しませんか。エライ先輩も新米社会人も、和気あいあいとなごやかに。
そうそう。
OB会とは本来、楽しくてなごやかなもの。それを原点にしてやっていこうと抱負しています。

論壇

21世紀の大学像

大学はどこへ行くのか

西田 安慶 (大学9回卒)

1、はじめに
今日、大学をめぐる様々なニュースがマスコミにより報じられている。



(1)国立大学の独立行政法人化、(2)大学教員の任期制、(3)大学の第三者評価、(4)大学の財政問題、(5)大学の施設・学部の増設、(6)高等専門職業人の養成に特化した実践的な教育を行う大学院修士課程の創設、(7)サテライト教室(校舎)の設置、(8)私立短大・大学の定員割れ、(9)大衆化された大学での教育の在り方など、多彩である。

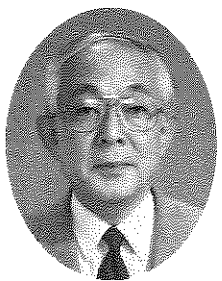
経営管理、ファイナンス、公共政策などが考えられる。近年わが国社会・経済の構造変化と国際的な相互依存、世界的規模での競争の中で、これらの分野で国際社会の直面する新たな課題の解決と公正な国際的ルール作りや合意の形成に積極的に参画し得る人材の育成がとりわけ求められているからである。本課程の設置促進に当たっては、教育研究における理論と実務との接点という観点から、大学の教員と実務家との共同研究や大学の教員が一定期間実務を経験することの奨励・支援が必要であり、これらにより当該学問分野の発展に新たな可能性を開くことにもなると考えられる。このような視点に立てば、陵水会員諸氏の役割は自ら明らかとなる。積極的な対応によって、母校の発展に寄与すべきものと考える。

4、結び

「2、わが国大学教育の問題点」においては、主に私立大学が直面している課題とその対応策を述べた。それによつて今日の大学問題を理解する一助とされることを願うものである。特に触れなかったが、少子化社会で過保護過干渉で育った青年を自立へと導くには、多くの困難を伴うことを理解して頂きたいのである。

「3、滋賀大学経済学部の特長」では、高度専門職業人の養成に特化した実践的な教育を行う大学院修士課程・博士課程の設置を提案した。京都市などの都心部にサテライト教室を設置し、社会人にも開かれた大学院を目指すべきである。また、海外からの留学生の受け入れも積極的に推進すべきである。その面では、わが国はシンガポール、香港などに大きく後れをとっている。グローバル時代を生き抜く大学としての発展を期待したい。最後に、本大学院の設置・運営には陵水会員諸氏の協力・支援が欠かせない点を指摘して結び

論壇 『教育の現状打開の処方箋は』



山本 勉 (大10 元高校教員)

結論を先に申しますと、教育の現場では、『30人学級の早期実現』を切実に求めています。

「小一問題」(小学校一年生の教室でさえ授業が成り立たず、学級が崩

としたい。

【参考文献・論文】

- 1、大学審議会『21世紀の大学像と今後の改革方策について―競争的環境の中で個性が輝く大学―(答申)』、1999年10月。
 - 2、東海高等教育研究所『大学と教育1999年10月号』大学教育出版、1999年10月。
 - 3、栗山仙之助『現代の大学教育に関する提言』、日本学術会議『学術の動向2001年7月号(財)』日本学術協力財団、2001年7月。
- 〔東海学園大学経営学部・同大学〕
〔院経営学研究科教授〕

壊している。成人式での新成人の傍若無人な態度、高校生の公共の場(通学中の電車など)でのマナー欠如。これら現在の教育をめぐる諸問題について、皆様それぞれ見解をお持ちのことと思う。

これらの現象は私たち学校の現場では十数年前から予想・懸念されていて、その対応・解決のために努力してきた課題でした。大切なことは、その原因は一体な

になのかということ。それは、文部省(当時)の的外れな無責任な政策にある。いじめや不登校・高校生の退学者の増加に直面した文部省は「ゆとり」・「こころの教育」など観念的な施策を行い、「わからないことも一つの能力」として、基本的なことをきちんと教える努力とそのための条件整備を放棄した。

例えば、高校では「80単位を修得すれば卒業を認めよ」と強制的に上意下達してきました。一方で、すべての授業への出席だけは生徒に求められている。三年間で96時間(単位分)ある授業のうち16時間分の授業については、授業には出なくてははいけなけれども、試験に受からなくても、単位を取らなくてもよいということ。すなわち、一年間で週32時間ある授業のうち5時間分については、授業中におしやべりをしても、居眠りをしていても、よそ事をしていても、試験に受からなくても、規定上進級でき、卒業ができるしくみに強権的に変更させました。

困ったことは、このような状況下にあつて、現場教員の自信や共通の教育理念(方向性)、自由な気風の喪失現象があることだ。その背景には、差別人事や教員への職階制の強化

(中間管理職の拡張・教育行政での官僚主義の浸透)、「日の丸・君が代」強制など規制の強化、そして若手教員の組織ばなれなどによる教員労働組合運動の停滞があります。

父母の教育観が対立した家庭の子どもほど哀れな存在はないが、学校教育の現場でも、状況を打開するための共通認識や努力目標は形成されていません。

しかし、私が38年間努めた名古屋市立高等学校では、「日の丸・君が代」のような特殊な問題を除き、校長とともに全教職員が協議し、協同して問題に対処していく体制が、全国的にも珍しく今でも保障されていて、幸い私の職場では、大きな問題は発生せず、教育という仕事に苦しみながらも楽しく取り組んでいる教員が多かった。

また、雑誌「世界」6月号の座談会で、小学校6年生の女の子が発言している次のことは一つの答えを示していると思う。

「落ちてほれ」っていうのは、人種差別っぽい。今の私のクラスの先生はできない子に合わせて、できない子がわかるまで教えるっていうやり方をしてるので賛成です。なぜなら、塾に行っている子に合わせたら

全然勉強がわからないまま進んで、義務教育の意味がないと思います。私は、法学概論で学んだ『人の人たる所以は、人と人との結合にある。』を引用し、授業で高校生に、社会性の大切さを訴えました。また、教育原理で学んだ『一人は万人のために、万人は一人のために!』を実践するため、生徒の全面発達(知育・徳育・体育)に努め、教育への「教育への競争原理の導入」に反対しました。

教員や子ども達は、文部科学省や教育改革国民会議によるお説教や口出し(奉仕の義務化など)よりも30人学級の実施による教育条件の整備、『教育は百年の計』のための財政の支出を求めているのです。

卒業して16年

昭和60年3月に滋賀大学を卒業して早16年が過ぎました。大学時代の私は恥ずかしながら勉強の記憶よりもクラブ活動としてのラグビーの記憶のほうがはるかに強烈に残っています。それは入学金、授業料のことを考えると親不幸をしたのかもしれない。経済学部で4年間在籍しながら株の動きすら満足に読めません。損益計算書や貸借対照表も一目で読

み取る力がありません。しかし、そんな学生生活を送った私がかた一つ自慢できることがあります。それは人間関係を勉強したと言うことです。先輩、後輩、同級生、レギュラー、補欠、それぞれ違った立場の者がいて一つの組織が成り立っています。そんな中でいろいろなことを経験したとつくづく思います。

私は副将として、バックスリー

ダーとしてチームをまとめなければならぬ立場にいました。今から思うとあの時こうしていれば良かったと思うことがいっぱいあります。第一に思うことは、主将、主務ともっとコミュニケーションをよくとるべきだったと思うことです。人にはそれぞれ違った考えがあります。練習の仕方でも試合の臨み方も違って当たり前です。その考え方の違う者同士が試合に勝つために心を一つにしなければ試合には勝てません。普段から意思の疎通を図っていないのに急にまとまるはずがありません。第二に思うことは、適材適所ということ。四回生の最終戦、リーグ戦の決勝戦でした。キャプテンがけがで欠場、副将の私がゲームリーダーに任されました。一年後輩の山田(全布)君が足を傷めて試合には出れないと

言ってきました。私は満足に動けない者を使うよりは満足に動ける補欠の方がいいと考え、メンバーをいじりました。同時に従来のレギュラーポジションと異なる場所に配置された者は本来の力を発揮することが出来なかったのではないかと思います。何を言っても結果論になってしましますが、私がラグビーを通じて後悔していることと同時に、人生において活かさなければならぬと思う教訓は、以上の二点です。

大学卒業後中日新聞社に入社、以来販売局という営業の職場におります。機械相手の仕事ではなく、新聞販売店が主ですが、数多くの人と交わりを持つ仕事です。男性、女性、高齢者、中年、学生、経験の深い人、浅い人、性格の荒い人、穏やかな人、とにかくいろいろです。そんな中で最近になって思うことは、相手の話し、相手の言いたいことをじっくりと聞くことの大切さです。ついつい俺が俺がとの思いから自分の主張ばかりをしてしまいがちです。それがどんなに愚かなことかと思えます。今ごろになってと言われるかもしれませんが、これからは反省を忘れずに前向きに生きていきたいと思っています。

最後になりますが、新聞社に勤めておりますので、その辺のことを若干触れて終わりたいと思います。新聞というのはオイルショックまでは儲からない業界でした。新聞そのものの購読者が少なかったことと、チラシが非常に少なかったことが原因です。それがオイルショックを境にパブルの成長とともに業界そのものに余裕が生まれました。今の新聞社も新聞販売店も間違いなく安定経営です。今後続くという保証はどこにもありません。むしろ高齢者の方が目が悪くなつて新聞を読まなくなる、若い人が新聞がなくても何ら不自由なくやっていけるなど新聞を読まない人が増えてきている。一方インターネットの普及も新聞者にとっては脅威です。どのような形で共存を図っていくのかわかりませんが、これもやはり最終的には人間と人間の問題になってくるのではないのでしょうか?みなさん、それぞれのいろいろな立場で生きています。様々な経験を聞かせてもらい、まだ人生の半分ぐらいしか生きていない私としてはこれからもっととチャレンジしながら生きていきたいと思っています。

平成12年度陵水会名古屋支部会費納入者一覧表

Table with 2 columns: 卒回 (Graduation Year) and 氏名 (Name). Lists members of the Nagoya Branch of the Rinsen-kai for the Heisei 12 fiscal year.

陵水会 名古屋支部 幹事名簿

(平成13年6月現在)

Table with 5 columns: 回 (No.), 氏名 (Name), 郵便番号 (Postal Code), 住 所 (Address), 電話番号 (Phone Number). Lists the office staff of the Rinsen-kai Nagoya Branch as of June 2001.

水陵会 名古屋支部
交遊サロン「水陵亭」ご案内

当支部では毎月1回、全会員用の交遊サロンを開催しております。滋賀大OBであればどなたでも出席自由ですので、気軽に集まって、ぜひ大いに歓談し、大いに楽しいひとときを過ごしてください。お待ちしております。

ひとりでももちろんOKですが、会員各位にPRし、お誘い合わせていただくと、ますますにぎやかになります。

月に一度、老いも若きも自由に立ち寄ってください。きっと、意外な人にも会えると思いますよ。

(会場) 栄のど真ん中

「ニッセイ テムズクラブ」(次図)

(会費) 安く 5,000円

(開催日) 原則 第3金曜日

午後6時30分

平成13年

6月15日(金) 7月19日(木)

8月24日(金) 9月21日(金)

10月19日(金) 11月16日(金)

(12月 休み)

平成14年

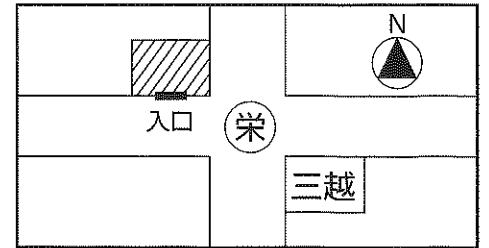
1月18日(金) 2月22日(金)

3月22日(金)

※会場入口で「水陵会」と名乗ってください。

「ニッセイ テムズクラブ」

栄「三越」の北西向かい角
「日本生命栄町ビル」9F TEL052-961-8645



名古屋水陵ゴルフコンペ

恒例のゴルフコンペが左記の要領で開催されます。本コンペも早いもので満22年を迎えました。同窓の交流、同期の集いと益々盛況を早めています。前回はハンデキャップ方式です。23名の参加で、ダブルペリア方式の結果、優勝、Bの二人が今回の幹事となりました。

今回はハンデキャップ方式です。30名以上の参加を目指しています。特に若いOB諸君を歓迎すべく土曜

水陵水古屋男声合唱団
(通称水陵水男声) 団員募集

平成13年6月8日(水陵水古屋支部総会)設立発表した水陵水男声は、正式に9月より活動(練習)を始めます。準備委員12名を中心に「活気のある合唱団」を目指して多くの皆様に参加頂きたいと思っております。

名称 水陵水古屋 男声合唱団 (通称 水陵水男声)

目的 会員が集まり、合唱(練習)することを楽しみ、相互の親睦をはかる。

更には東海地区の合唱音楽の分野でも水陵水会(員)の元気を示す。

原則として水陵水会員とし、卒業年次 合唱経験の有無を問わず、元気に楽しく合唱(練習)に参加できる方。

コーラスの経験は無くても、やってみようという意欲さえあれば大丈夫です。

歓迎します。(水陵水男声活性化の必要条件)

گریーOB、合唱経験有の方々、

中核部隊として積極的なご参加を期待します。

団員 20名(最小)以上

会費 1,000円/月

練習

練習曲 易しく、美しい小曲をアカペラで歌う(練習する)。

当面の曲として、遙かな友に・希望の島・いざや我等の等が候補です。又、彦根・滋賀(琵琶湖)に縁のある歌を男声合唱する事も指向する。例えば琵琶湖周航の歌等を。

練習 当面月1回 定期練習日(第3土曜日PM1:30~4:30)

練習会場 未定(名古屋市中心部を予定する)

指揮者 西村泰徳(9回卒)、滋賀大グリークラブ第1回演奏会(33年)指揮者。

30回迄で数名の定期演奏会指揮者が中部地区に存在し、充実した指揮者体制がとれます。

練習の基本方針 易しい小曲を練習するが、基本を大切に正しく美しく歌う事を目指し、練習を大切にしていきます。

申込み 入団申込書をご利用ください。

合唱経験の無い方、ながく中断し

日開催をずっと守っています。どうか皆様お誘い合わせの上の参加を切望します。お互いにさわやかな楽しい半日を過ごそうではありませんか。

第43回コンペ成績

- 優勝 西村泰徳(大9)
- 2位 大山能孝(大23)
- 3位 酒井盛雄(大13)
- 4位 石橋政雄(大6)
- 5位 後藤佳良(大24)

第44回コンペの案内
日時: 10月6日(土) 8:00頃スタート
場所: 東名古屋C.C
会費: 30,000円(予定)
幹事: 西村泰徳(大9) TEL059-232-2923
山内 薫(大21) TEL 0586-24-1407
090-1723-2847

水陵俳壇

大6 伊興正道
琉球の歌のびやかに椰子咲けり
南風涼し金鯱仰ぐ勝力士
新語や映画ほたるを観ての夜
含羞草子猫の鼻に眠りけり
日傘手に童女日傘の母を追ふ
短2 斉藤武司
灯台へ道分かれゆく大南風
帰省バス白樺林抜けきたり
川床料理果てたる後の瀬音かな
百合の香とまどひて戻る荘の客

て歌っていない方もおられると思いますので、当面の5~6ヶ月間はならし運転(練習)とし、あわてず、ゆっくりと進めていきたいと思っております。あまり難しく考えず、気軽に参加(申込み)下さい。

申込みは左表の準備委員へTEL・FAX等でお願います。

氏名	卒回	郵便番号	住所	電話番号	FAX番号
浅井 勢士	5	468-0015	名古屋市天白区原一丁目2105 アーバンライフ原3F-1	052-806-5489	052-806-5392
浅野幹司	15	500-8361	岐阜市本荘西4-3	058-251-5281	
上中 健人	21	471-0822	豊田市水源町2-22-216	0565-26-0522	
近藤 実	5	486-0927	春日井市柏井町5-69	0568-81-4547	0568-81-4547
杉谷 哲夫	21	511-0232	三重県員弁郡東員町笹尾3-27-7	0594-76-7070	
富田 敏夫	20	464-0076	名古屋千種区豊年町12-11 キャトルセゾン田内501	052-722-8363	
西村 泰徳	9	514-0001	津市江戸橋1-10-36	059-232-2923	059-232-2923
野寺 賢二	22	470-0134	日進市香久山2丁目1404	052-806-8430	
山内 佳紀	23	466-0807	名古屋市昭和区山花町94-4	052-761-1386	052-761-1869
山本 勉	10	463-0004	名古屋市守山区吉根釜ヶ洞1642-58	052-736-5889	
米澤 正治	25	477-0032	東海市加木屋町北平井39-2 ル・ミレニアム101	0562-35-1003	
寄田 昌二	8	470-0155	愛知県愛知郡東郷町白鳥4-7-1 グリーンハイツ押巻105-202	05613-8-3338	05613-8-3338

キリトリせん

水陵名古屋 男声合唱団に入会します。

氏名	() 回卒		
住所	〒	-	
	TEL	FAX	メールアドレス
その他通信欄			

器みな網目模様の鮎料理 大6 石橋政雄

花付けて菖蒲株分け進みけり
這ひ上がる亀の家族や梅雨晴間
喜々として朝の園児や水を撒く
庭苔の青し簾を陰として
山門の朝市老の蚊遣して 大5 柴 宗平

干し鮎の香ほのかに軒の笹
白牡丹八日にくづれるたりけり
梅雨晴れや節水解除知らされて
てっせん花葉うらの蕾とがりみて
酒むしの鮎菌くきに媚びのあり

芸術グループ

陶芸部門

陶芸仲間(名古屋市民ギャラリー)清水吉男
武豊、富貴、東浦など地元土にこだわりの、釉にも独自の調合を追求した新しい作品を発表。

油彩部門

春陽展(県美術館) 大橋泰夫
サポテン2
寒色を基調にした100号の大作。柔らかな表現技法が評価され、2年連続の入选。

濁り池

創陽展(半田市福祉文化会館) 神原 寛
新緑の季節の池面が光の加減で微妙

陵水会支部別年会費納入状況・支部補助額
平成13年4月1日

平成12年度陵水会名古屋支部収支報告書
自平成12年3月1日 至平成13年2月28日 (単位:円)

支部名	12年度		13年度	
	人員	補助額	人員	補助額
名古屋	587 ^A	177,000 ^円	586 ^A	176,000 ^円
東京	517	156,000	502	151,000
大阪	422	127,000	423	127,000
兵庫	231	70,000	336	101,000
京都	225	68,000	255	77,000

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,672,037	平成12年度総会費用	1,904,588
平成12年度総会会費	1,640,000	「名古屋陵水」発行費	352,500
平成12年度支部会費	702,000	会議費	34,545
本部より補助金	177,000	交際費	50,000
雑収入	81,846	雑費	576
		次年度繰越金	1,930,674
	4,272,883		4,272,883

注]人員は、それぞれ前年度の年会費納付人数 支部会費：2,000円×351名 本分会費：3,000円×351名 (代理集金)
出所：評議員会の資料より抜粋

東海ミツワ電気株式会社

代表取締役 松林茂晴 (大19回)

〒460-0003
愛知県名古屋市中区錦3丁目3番23号
TEL (052) 962-0471 FAX (052) 962-0471
E-mail:s.matsubayashi@mitsuwadenki.co.jp

株式会社シーティーアイ

石原秀夫 (大14回)

〒4500-0003
名古屋市中村区名駅南一丁目27番2号 日本生命笹島ビル
TEL (052) 563-3901 FAX (052) 563-3983
URL http://www.cti.co.jp/

中央三井信託銀行グループ

こぶしゴルフ倶楽部
セントラル開発株式会社
営業部

部長 大山能孝 (大23回)

名古屋事務所 〒460-0003
名古屋市中区錦2丁目19番20号 広小路パークビル6階
TEL (052) 222-5230 FAX (052) 222-5240
本社 〒460-0003 岐阜県可児郡御嵩町前沢8075-6
TEL (0574) 67-6171
http://www.inforup.com/kobushi/

山内会計事務所

税理士 山内 薫 (大21回)
行政書士

〒491-0045
一宮市音羽3丁目4番11号
TEL (0586) 24-1407 FAX (0586) 24-1472

【編集後記】

◇前期、二つの大学で講義したが受講生は二百人以上。うれしいけれども、教室をコントロールできない。教育の原点で悩んだ日々。
◇今月初旬、砂漠で学生達とボランティア活動で植林してきた。黙々と奉仕する学生に感激した。
◇北京市内ではオリンピックのために都市の再開発が進んでいる。日本の不景気とは対照的。グローバルゼーションの脅威がこれから本格化する前兆か。

第一生命保険相互会社

総合FPコンサルティング部
(名古屋支社担当)
シニアファイナンシャルプランナー

課長 玉井博之 (大30回)

支 部 〒460-0003
名古屋市中区錦3丁目4番6号
東海銀行・第一生命ビル5F
TEL (052) 962-8221代表 FAX (052) 950-1657